

- 都内では、個人直売所や学校給食への出荷が盛ん。
→環境に優しい安全・安心な地元農産物への関心が高い。
- ハダニ類・アザミウマ類など微小害虫による被害が大きな生産阻害要因。
- 普及指導員と農業革新支援専門員が展示ほを設置し、各種物理的・生物的防除法の実証を行い、試験研究機関の協力を得ながら現地適用性について検討。

具体的な成果

1 施設イチゴのUV-Bと天敵製剤の利用によるハダニ類防除の実証

■ 夜間のUV-B照射＋天敵製剤(カブリダニ類2種)の放飼

- ① UV-Bの照射 ② 2種の天敵放飼 の防除体系を生産現場へ導入。
- ③ 夜間の照射時間による葉焼けの軽減
- ④ 2回放飼 → 1回放飼の有効性調査
- ⑤ 照射距離の異なる装置の効果検討



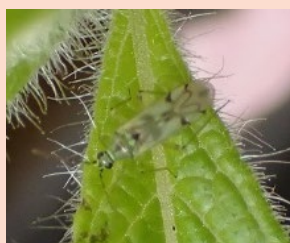
2 露地ナスの天敵利用によるアザミウマ類の被害低減実証

- ① 露地ナスの周辺にマリーゴールドを植栽し、ヒメハナカメムシを誘引、定着を図ることによってアザミウマを防除
- ② カブリダニ製剤を放飼することでチャノホコリダニを防除
- ③ 紫色LED照射による天敵誘引



3 タバコカスミカメによる施設果菜類のアザミウマ防除実証

- ① キュウリ栽培施設内にゴマを植栽し、タバコカスミカメ製剤を放飼することでアザミウマ類を防除
- ② トマト栽培施設で実施



普及指導員の活動

令和3年

- 防除技術の展示ほを都内2カ所に設置
- 普及指導員向け研修、OJTに活用
- 農家向けの広報誌等に掲載

令和4年

- 防除技術の展示ほを都内3カ所に設置
- 普及員指導員向け研修、OJTに活用
- 講習会開催、広報誌等に掲載
- 都内他地域への技術紹介

令和5年

- 防除技術の展示ほを都内3カ所に設置
- 成果のとりまとめ・事例集の作成
- 技術支援

普及指導員だからできたこと

- ・ 専門知識に基づき、試験研究機関との連携のもと、新技術や新品目の導入を図ることができた。
- ・ 他県の先進事例を情報収集し、効果的な活動に結びつけた。

東京都

野菜類の難防除病害虫に対する防除技術の導入促進

活動期間：令和3年度～継続中

1. 取組の背景

都内では、個人直売所や学校給食等への出荷が盛んに行われており、安全・安心な地元農産物への関心が高まっている。このため、従来から化学農薬の使用や散布回数を減らすなど、環境に優しい栽培に取り組みが注目されている。一方で、ハダニ類やアザミウマ類などの難防除病害虫による被害が大きな生産阻害要因となっている。

このため、普及指導員と農業革新支援専門員（以下、専門員）により、物理的、生物的防除手段を用いた病害虫技術の導入、定着を図り現地での展示において実証することで、環境に優しく安全安心な農産物の生産を推進する。

2. 活動内容（詳細）

- (1) 施設イチゴの UV-B と天敵製剤の利用による病害虫防除の実証（令和3～実施中）

本プロジェクト開始前より UV-B および天敵製剤を導入して実績を上げている施設において、これまでに使用してきた装置（株元から電球までの高さが120cm以上必要）よりも低い位置（高さ90cm）で使用可能な装置について、効果を検証した。

- (2) 露地ナスにおける天敵利用によるアザミウマ類の被害低減（令和3年）

露地ナス植栽圃場周囲に、アザミウマ類の天敵であるヒメハナカメムシを誘引・定着させるためにマリーゴールドを植栽し、被害低減効果を調査した。さらに、カブリダニ製剤を放飼することで、チャノホコリダニによる被害低減を実証した。

- (3) 紫色 LED 照射による露地ナスの土着天敵誘引（令和4年度～実施中）

露地ナス植栽圃場周囲に植栽したマリーゴールドへの、ヒメハナカメムシの誘引定着をさらに促すため紫色 LED 照射を行った。被害およびヒメハナカメムシの飛来数を無処理と比較する。

- (4) タバコカスミカメによる施設果菜類のアザミウマ防除（令和4年度～実施中）

タバコカスミカメ製剤を施設キュウリ圃場に放飼した。放飼しない施設とアザミウマの発生及びキュウリ果実の被害状況を比較し、実用性を検討した。施設内にはタバコカスミカメの定着、増殖を促すためにゴマを植栽した。令和5年度は、トマトの施設促成栽培圃場で効果を調査する。

3. 具体的な成果（詳細）

- (1) 施設イチゴの UV-B と天敵製剤の利用による病害虫防除の実証

都内では、軒高が低い小規模な施設でのイチゴ生産が多く、従来の装置による UV-B 照射では葉焼け等の問題が生じやすい。そこで、より低い位置

に設置できる装置について調べたところ、うどんこ病とハダニ類の防除効果は従来の装置とほぼ同等であった。しかし光源から植物体への距離が近い分 UV-B 光が到達する範囲が狭く、光源の設置数を増やす必要があった。

(2) 露地ナスにおける天敵利用によるアザミウマ類の被害低減

ヒメハナカメムシが定着し、慣行区と比較してナス果実の被害度も低減した。

(3) 紫色 LED 照射による露地栽培果菜類の土着天敵誘引

ナスについて実証展示ほを設置したところ、アザミウマ類の被害抑制に一定の効果を確認した。一方、天敵温存のために農薬使用を制限したところ、害虫のカメムシによる果実被害が顕著に見られた。これは調査圃場付近の民家のガーデンライトが害虫を誘引したためと考えられた。

5年度は、民家等の光の影響が少ないナス圃場で検討を継続すると共に、露地トマトについても実施する。

(4) タバコカスミカメによる施設栽培果菜類のアザミウマ防除

キュウリ栽培施設内に4月中旬にゴマを定植し、草丈約30cmとなった5/11にタバコカスミカメを放飼した。放飼の約4週間後からアザミウマ類防除効果が確認できた。ゴマの生長が予想より遅く、7月中旬の収穫終了まで期間が短かった。作物や作型に合わせて温存植物を選択したり、栽培期間を決定する必要があった。

4. 農家等からの評価・コメント（町田市内イチゴ生産者）

農薬を使用するには薬液の調整から始まって、散布後の後片付けまで、時間がかかる。天敵導入により、農薬散布に要する時間を削減することができた。

5. 普及指導員のコメント（農業振興事務所振興課 吉田 滋実）

展示ほの実施にあたっては、試験研究機関やJA等の協力を得ながら実施している。周辺住宅の照明など、都市ならではの問題もあり、圃場の環境も踏まえた上で農家を支援していく必要がある。成果は順調に上がっているので、専門員として、先進事例の情報収集などで普及指導員をサポートしつつ、効果的な普及活動の展開に努めている。

6. 現状・今後の展開等

引き続き調査と検証を続ける。なお、この取組は、重点プロジェクトとして位置付けている。